

課題とされる面

・学習面

小・中学校それぞれの先生同士が互いの教科書を見て、9年間の学びのつながりを確認し、同じ教科でもどのような点に違いがあるのかなどを学びあうことが必要とされています。

・生活面

小・中学校合同の行事の開催など、取り組みの差をどう埋めるかが難しいとされています。

また、児童・生徒間の人間関係が固定化しないよう配慮する必要があるとされています。

・教職員

これらのために先生間の打ち合わせ等が増えると考えられています。

以上のとおり、今後挑戦しなければならぬ課題面も当然ありますが、早来地区の今のおかれている様々な状況などを全体的に考えて、一つの校舎による義務教育学校を選んだと言えます。

②新しい学校をその場所に建てたのは『なぜ』？

・土地（敷地）の問題

安全で良好な環境の場所であるのはもちろんのこと、学校施設を整備できる面積が必要であること、まとまりのある建設に適した

形状であることが必要でした。また、スポーツセンターや公民館、認定こども園などの施設が集まる地域でもあることから、現在の場所が選ばれました。

・通学の問題

市街地に近づくことで通学や教育活動などの利便性を高めたいと考えました。また、安平小学校と遠浅小学校のほぼ中間地点に位置し、通学時間に大きな差が出にくい場所としています。

以上のとおり、一部民有地を購入しているものの、なるべく町有地（安平町が所有する土地）を多く活用することや、費用がかからないよう平坦で建設しやすい場所が選ばれています。

③一般の方も学校の施設を使えるようにするのは『なぜ』？

児童・生徒の皆さん以外の、保護者を含む地域にお住まいの方々にも、学校の施設の一部を使っていたくことを「地域開放（ちいさかいほう）」と言っています。

これまでも様々な国の法律で地域開放を進めるよう決められていて、安平町でも体育館やグラウンドなどで行われてきましたが、新しい学校でも、図書室・会議室や一般的に言われている調理室・技

術室や体育館に当たる部屋を地域開放することが予定されています。これらの部屋を地域開放しようと考えた理由は「新しい学校を考える会」という住民の皆さんとのワークシヨップや説明会、アンケート調査などで次のようなご意見をいただいたからです。

● 誰でも参加できるような場所になっしてほしい。

● 学校にいろいろな方が関わることでできるようなしてほしい。

● 「とりあえず学校へ行こう」と思える場所になっしてほしい。

● 出身の国、職業、性別、年代の異なる人々が集まる場所になっほしい。

これらの意見を踏まえて、次のような学校にすることが計画されました。

● ひとつでも多くの部屋を地域の方に使っていたくこと。

● 学校と地域が交流できる場所を用意すること。

● 学校が休みの日などでも子どもたちの居場所となること。

以上のとおり、学校に通う児童・生徒や先生方だけの場所ではない「みんなの学校」を目指すこととされました。

校章について

その学校のシンボルとなる校章については、広報あびら12月号で、新しい学校でも作成する考えであることをご説明しました。

校章を作成するためには、その学校の名前や、その学校が目指す子どもの育つ姿をあらわす教育目標などを参考にデザインされることが多いものです。先月その学校名が決まりましたし、教育目標もすでに決まっていますので、いよいよ作業に取りかかっていきたいと考えています。

※教育目標については、今後広報紙でお知らせしますが、町ホームページではひと足先にご案内していますのでご覧ください。ご連絡いただければ、紙にしてお渡しすることもできます。

校章と、それに関連する校旗の作成スケジュールは、次のページの通りです。

